

**ドイツ座**  
Deutsches Theater

原作:G.E.レッシング / 演出:ミハエル・タールハイマー

**『エミーリア・ガロッティ』**

*Emilia Galotti*

<ドイツ語上演・日本語字幕付>



©IKO FREESE/DRAMA.

主催: NPO法人アートネットワーク・ジャパン / 財団法人埼玉県芸術文化振興財団

 東京ドイツ文化センター

助成:  財団法人地域創造 /  Asahiアサヒビール芸術文化財団

特別協賛:  Asahiアサヒビール株式会社

協賛:  SHI/EIDO /  トヨタ自動車株式会社 /  Panasonic /  Lufthansa

 平成17年度文化庁国際芸術交流支援事業



2006年3月19日(日) - 21日(火・祝)

彩の国さいたま芸術劇場

お問合せ

東京国際芸術祭(TIF)

TEL.03-5961-5202/ FAX.03-5961-5207/ tif@anj.or.jp

2006年3月、東京国際芸術祭は、ドイツ・ベルリンよりドイツ座を招聘し、新世代の演出家、ミヒャエル・タールハイマー演出による『エミーリア・ガロッチィ』を上演します。

『作品に忠実であることはテキストに忠実であることと関係ない』(タールハイマー)、という言葉通り、18世紀の古典戯曲をラディカルに切り詰め、新しい息吹を与えて現代に甦らせた本作品は、2001年の初演以来、すべての公演が即日完売するという観客の圧倒的的支持を受け、ニューヨーク、モスクワなど世界の劇場でも絶賛を浴びてきました。

「日本におけるドイツ」年の演劇シリーズを締めくくる、待望の初来日公演です。

### ファッションショーのような、美しさ。花火のような、儂いエロティシズム。

原作は、18世紀ドイツ啓蒙主義の代表的存在であるレッシングが、「市民悲劇」として、鋭い社会批判を込めて書いた長編戯曲。君主が市民階級の娘に一目惚れをしたことが引き金となる、父親と娘の悲劇が描かれています。タールハイマーは、この原作を大胆にカットして、そのエッセンスのみを抽出。高く左右にそびえ立つ壁、奥行きが深いシンプルな舞台空間をつくりあげ、原作に描きこまれている「君主と市民階級の差」を、「男女の心の機微と関係性」に読み換えて、スタイリッシュな演出を加えました。

ウォン・カーウアイ監督の映画『花様年華』の主題曲にのせ、ファッションショーのように舞台奥から歩み出てくる男女の俳優たち。お互いの手に触れる、すれ違いざまに見つめ合う、などの形式的な動きが繰り返される。一方、烈火の勢いで台詞が吐き出されたかと思うと、突然飛び跳ねる、浮遊するように歩き出すなど、激しい感情が剥き出しにされる。

余分な動きや小道具が一切排除された時間と空間の中で、身体／言葉／感情の狭間にある深淵に切り込むようなコンセプチュアルな演出が際立ち、圧倒的な演技力を持つ俳優たちによって、人と人が触れ合う際の心の機微が、浮き彫りにされていきます。



他人をコントロールしたいという欲望とコントロールされたという愛。これを人間が集団存在であることから直接由来する政治性と呼ぶことができるとすれば、タールハイマーが見せるのは、感情の政治学であると言えるだろう。

新野守広著「演劇都市ベルリン」(れんが書房新社)より

## あらすじ

グアスタッラの公爵ゴンザーガは、平民の娘エミーリアを一目見て恋に落ちるが、彼女がアッピアーニ伯爵との結婚を控えていることを知り愕然とする。結婚式の朝、教会で祈りを捧げるエミーリアの耳元で、公爵が愛の言葉を囁く。驚き慄くエミーリア。同じ頃、侍従マリネッリの策略によってアッピアーニ伯爵が殺害される。何も知らずに、公爵邸に連れてこられるエミーリア。一方、公爵に裏切られ、プライドを著しく傷つけられた元恋人オルシーナ伯爵夫人は、エミーリアの父親に公爵が娘を誘惑したことを告げ、復讐するように仕向ける。娘の貞操を傷つけた公爵を殺し、娘を連れ戻そうとする父親に、静かに対峙するエミーリアは、自らの身体に流れる熱き血と肉と官能を見出してしまったことを告げ、死を選ぶことを決意する。

## 「エミーリア・ガロッティ」プレス評

ミヒャエル・タールハイマーは、レッシングの原作をラディカルな舞台に立ち上げ、ベルリン市民を震撼させた。 [DPA 紙(2001年9月28日付)]

タールハイマーは、ミニマリストである。本作品は、繊細なディテールにまでわたって設計されたコンセプト・シアターと呼べる。(中略)観客は催眠術にかけられ、時間感覚を失う。

[Der Tagesspiegel 紙(2001年9月29日付)]

## スタッフ・キャスト

原作: G.E.レッシング

演出: ミヒャエル・タールハイマー

美術・衣裳: オーラフ・アルトマン

音楽: ベルト・ヴレーデ

(『花様年華』挿入曲「夢二のテーマ」作曲: 梅林茂より)

ドラマツルグ: ハンス・ナドルニー

出演:

エミーリア・ガロッティ: レギーネ・ツィンマーマン Regine Zimmermann

オドアルド: ペーター・パーゲル Peter Pagel

クラウディア: カトリン・クライン Katrin Klein

グアスタッラの公爵: スヴェン・レーマン Sven Lehmann

マリネッリ: インゴ・ヒュルスマン Ingo Hülsmann

アッピアーニ公爵: ヘニング・フォークト Henning Vogt

オルシーナ伯爵夫人: ニーナ・ホス Nina Hoss

技術監督: 草加叔也(空間創造研究所代表)

舞台監督: 平井徹(財団法人埼玉県芸術文化振興財団)

照明: 岩品武顕(財団法人埼玉県芸術文化振興財団)

音響: 山海隆弘(財団法人埼玉県芸術文化振興財団)

翻訳: 萩原健(早稲田大学演劇博物館)

制作: 大久保聖子(NPO 法人アートネットワーク・ジャパン)

## ドイツ座 Deutsches Theater

### 劇場史

1850年にベルリンの旧東ドイツ地区に建設され、ロココ式の豪華な中劇場(622席)と小劇場(カンマーシュピーレ・422席)の2つの舞台を持ち、質の高い舞台を提供することで定評がある。



1905年に、演出家マックス・ラインハルトが劇場に参加して以降、ドイツ語圏の舞台の「最高峰」という名声を手にし、世界的に名を知られるようになる。マックス・ラインハルトは、亡命する直前の33年まで、この劇場を率い、隣接する土地に近代的なカンマーシュピーレ(室内劇場)を建てて俳優たちを集めた。ナチ独裁の暗く困難な時代には、ときに「反抗的な舞台」としての名声を保ち続け、戦後になると、亡命していた多くの芸術家たちがドイツ座に新しい拠点を見出した。以降、ベンノ・ベッソン、アレクサンダー・ラング、ハイナー・ミュラーらが続々と輩出していく。90年、ミュラー演出『ハムレットノマシーン』の初演も同劇場で行われた。

91年より、トーマス・ラングホフが芸術総監督を務め、96年には「バラック」という若い演劇人のための小スペースをつくり、当時注目を集めていたトーマス・オスターマイヤーにその運営を任せた。「バラック」では、マーク・レイヴンヒル、サラ・ケイン、デイヴィッド・ハロワーなど、英国の現代戯曲に取り組み、ドイツの若手演劇人たちに大きな影響を与えた。90年代に入り、2度に渡って"Theater des Jahres"(年間で最も優れた活動をした劇場に与えられる賞)に選ばれている。

ミハエル・タールハイマー Michael Thalheimer (演出家)

1965 年、フランクフルト近郊に生まれ、85 年からスイスのベルンで俳優の勉強をする。俳優として、ベルン、マインツ、ブレーマーハーフェン、ケムニッツなど、ドイツ語圏のさまざまな市立劇場で活動したあと、97 年、ケムニッツ市立劇場で初めての演出、フェルナンド・アラバル(Fernando Arrabal)作『建築家とアッシリア皇帝 Der Architekt und der Kaiser von Assyrien』を発表したところ、その独特で正確な演出に他の劇場がすぐに注目し、以後、バーゼル、ライプツィヒ、フライブルクの著名な劇場での演出が続いた。

2000 年、タリーア劇場(ハンブルク)での『リリオム Liliom』とドレスデン劇場での『祭り Das Fest』の演出で高い評価をうけ、この二作は01年、ドイツ語圏の年間最優秀演出作品を決める演劇祭、ベルリン・テアタートレッフェンに招聘された。同演劇祭へは、03年にタリーア劇場での『恋愛三昧 Liebelei』が、05年には『ルル』(フランク・ヴェーデキント作)でも招聘されている。

タールハイマーの演出は、現在、定期的にハンブルクのタリーア劇場とベルリンのドイツ座にて観ることができる。ドイツ座においては、01年の『エミーリア・ガロッティ』がデビュー作となり、以降、『三人姉妹』(チェーホフ)、『寂しき人々』(ハウプトマン)、04年の『ファウスト 悲劇第一部』が続く。受賞歴としては、放送局 3sat の革新的演出賞(『リリオム』)や、ベルリンのフリードリヒ・ルフト賞、そして有名なウィーンのネストロイ賞(ともに『エミーリア・ガロッティ』)がある。

05年1月、ベルリン国立オペラ座での『カーチャ・カバノヴァ』で成功裡にオペラ演出デビューを果たしたタールハイマーは、さらに、頻繁にザルツブルク・フェスティバルやウィーン祝祭週間、また他の国際フェスティバルに招聘され、ローマ、キエフ、ブダペスト、ベオグラード、プラハ、マドリッド、メキシコシティ、ボゴタ(コロンビア)などで上演されている。『エミーリア・ガロッティ』はドイツ座にて現在でも非常に高い人気を博すレパートリー作品として、100回以上の上演を重ねており、客席は常に満席となっている。

タールハイマーは現在ベルリンに在住、05年夏からはドイツ座の主任演出家を務め、芸術監督の一人である。ドイツ座での最新作は『ファウスト 悲劇第二部』。

## 公演概要 Information

**公演日** 2006年3月19日(日) - 21日(火・祝)

3月19日(日)	3月20日(月)	3月21日(火)
15:00		15:00
	19:30	

上演時間：75分/ 終演後ポスト・パフォーマンス・トークあり

**会場** 彩の国さいたま芸術劇場

〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500

**料金** S席 5,000円 A席 3,000円  
学生席 1,000席(学生席は芸術劇場のみ取扱)

**前売開始** 2005年12月4日(日) メンバーズ優先  
12月11日(日) 一般前売

### チケット取扱

- ・彩の国さいたま芸術劇場(クレジットカード可)
- ・チケットぴあ：0570-02-9999/0570-02-9966(Pコード/366-097)  
0570-02-9988(演劇専用・オペレーター対応)
- ・e+(イープラス)：<http://eee.eplus.co.jp> (パソコン&携帯)
- ・東京国際芸術祭(TIF)：03-5961-5202 <http://anj.or.jp>

**お問い合わせ** 東京国際芸術祭(TIF)  
TEL. 03-5961-5202 [tif@anj.or.jp](mailto:tif@anj.or.jp) <http://anj.or.jp>